

■目的及び経緯

- ・豊橋市は、大崎校区において地元小学生・地元自治会・関連企業等地元関係者とともに、多様な生物の生息の場としての干潟、水質浄化機能としての干潟の重要性を広く認識し、三河湾の保全と再生の意識を将来へ継承するため、実験用干潟を造成することで学習の場、親水の場を提供し、環境と調和した三河湾を再生・創造する、との目的で、平成 23 年度より「干潟再生実験プロジェクト」を展開してきた。



- ・この事業を通じ、地元関係者も生物調査や干潟のごみ拾いなどにより干潟への理解を深めてきており、平成 25 年度には、干潟研究発表会の実施や報告冊子の作成などにより、本事業に関し一定の理念継承がなされた。
- ・一方、本プロジェクトの元来の目的である「アサリなどの多様な生物の生息の場としての干潟、水質浄化機能としての干潟の重要性を広く認識し、三河湾の保全と再生の意識を将来へ継承するため、環境学習の場、親水の場を提供し、環境と調和した三河湾を再生・創造する。」との事業理念を普及し展開していく必要がある。
- ・そこで、次のステップとして、「干潟保全実践プロジェクト」と題し、これまでとは別の地域をフィールドに、地元小・中学生や地元自治会、関連事業者その他一般市民とともに、干潟の観察や生物調査、ごみ拾い等により、プロジェクトの理念を継承しながら、干潟への理解を深めていくことを目的とする。
- ・具体的には、国内でも有数の渡り鳥渡来地である汐川干潟において、干潟の一部に手を加え、底生生物が定着しやすい環境を整える。その上で、従前より実施している自然観察会に加え、地元の住民や小・中学校等へ呼びかけ環境学習への活用をすすめ、「見て」、「触れて」、「感じて」、そして「学ぶ」ことで、この事業理念を継承し展開していく。

■活動内容 ※以下、状況により適宜調整

1. 地元中学校であり環境学習の一環として汐川干潟の学習を進めている章南中学校とともに、実践活動を実施していく。具体的には、干潟内の現状観察した上で、
 - ・より多種多様な生物を定着させるため、中学生が保全実践3ゾーン（耕うんゾーン、カキ殻ゾーン、カキ殻粒子ゾーン）を整備
 - ・以降、生物調査等を実施しながら生物の定着状況を把握
 - ・生物調査等を検証し、学習しながらよりよい手法を検討
2. 地元小学校とも広く環境学習的観点でタイアップできるよう進めていく。
3. あわせて、杉山校区自治会にも参画・協力を働き掛ける。
4. 今後、汐川干潟が自然観光資源「ネイチャースポット」として広く市民に活用してもらえるよう、プロジェクト内で章南中学校等と学習しながら考えていく。

■スケジュール（見込み）

【平成 25 年度事業】

時期	内容	概要	場所
H26.3.18	学習会	企画の検討、干潟について学習	章南中学校

【平成 26 年度事業】

時期	内容	概要	場所
H26.6.27	干潟保全実践活動（1回目）	カキ殻ネット据付けや耕うん作業等の各保全実践ゾーン整備、生物種等現況調査	汐川干潟
H26.9.22	干潟保全実践活動（2回目）	耕うん作業等実践活動、各ゾーンの生物種等を調査	汐川干潟
H26.10.5	汐川干潟クリーンアップ大作戦	干潟美化活動	汐川干潟
H27.1	学習会	これまでの復習、生物を増やす手法を学習	章南中学校

【平成 27 年度事業】

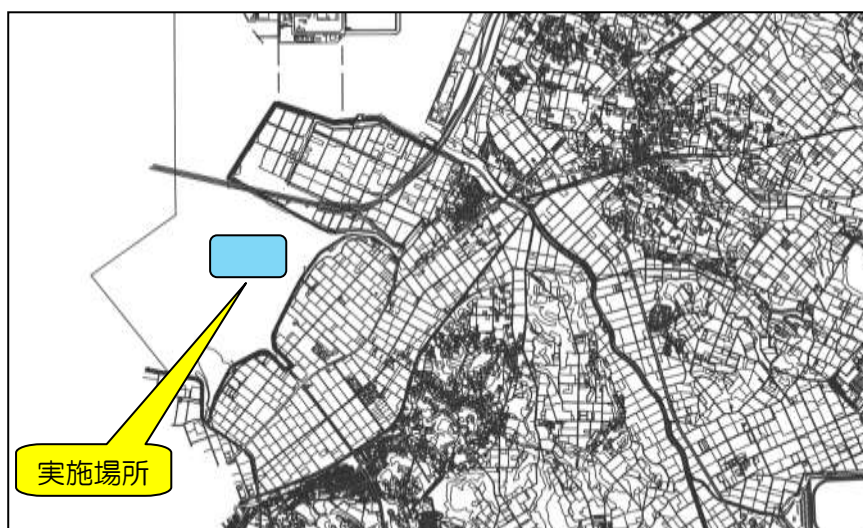
時期	内容	概要	場所
H27.5	学習会	干潟について学習	章南中学校
H27.5	干潟保全実践活動（3回目）	各ゾーンの再整備等、各ゾーンの生物種等を調査	汐川干潟
H27.9	干潟保全実践活動（4回目）	各ゾーンの生物種等を調査	汐川干潟
H28.1	学習会	これまでの復習、市民が観光できるスポットにできるか検討（小中学生、自治会他）	章南中学校

【平成 28 年度事業】

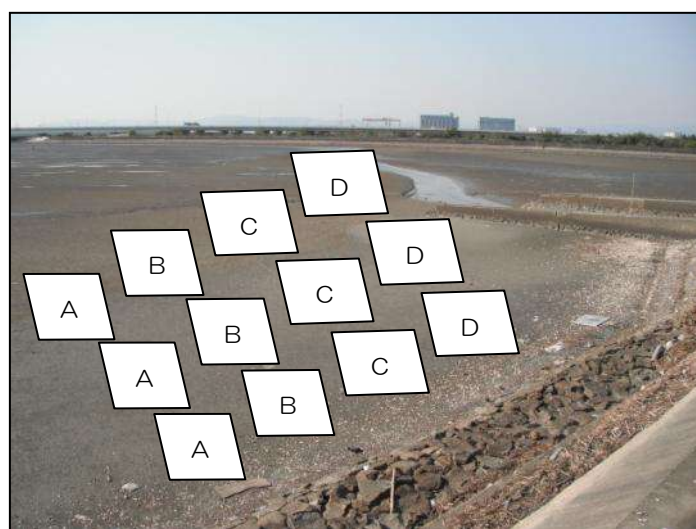
時期	内容	概要	場所
H28.5	学習会	干潟について学習	章南中学校
H28.5	干潟保全実践活動（5回目）	各ゾーンの再整備等、各ゾーンの生物種等を調査	汐川干潟
H28.9	干潟保全実践活動（6回目）	秋の生物種等を調査	汐川干潟
H29.1	学習会	これまでの復習、地元での運用手法の検討（小中学生、自治会他）	章南中学校

■実施場所

豊橋市杉山町字新々田地先



■イメージ図



A・・・耕うんゾーン

底泥を攪拌するため耕うん作業を行う。

B・・・カキ殻ゾーン

底泥を 30cm 程度掘り下げた後、カキ殻を 50×40×20cm 程度のネットに詰めたもの（カキ殻ネット）を据え付ける。



カキ殻ネット

C・・・カキ殻粒子ゾーン

底泥を 30cm 程度掘り下げた後、カキ殻を粉砕・固形化した粒子（カキ殻粒子）と川砂利とを混ぜ合わせ、50×40×20cm 程度のネットに詰めたもの（カキ殻粒子ネット）を据え付ける。



カキ殻粒子ネット

D・・・ブランクゾーン

上記 A・B・C との比較検証のため、手を加えず生物相を確認する。